

研究室から

大学はいま

女性やパートナーにとって結婚・妊娠・出産といったライフイベントは、これまでの生活を見直し健康を考える機会となります。その中でも喫煙習慣のある人は禁煙にチャレンジする良い機会となります。しかし、われわれの調査では、妊娠を機に禁煙した女性の約半数は産後18カ月までに再び吸い始めていました。

岐阜大医学部看護学科

纏纏朋弥准教授

この原因として、パートナーが喫煙していると再喫煙やすいことが明らかになりました。

産後の再喫煙を防止するためにはパートナーも一緒に禁煙することが重要です。加えて、禁煙した人の多くが自分で禁煙しておおり、妊娠期から出産・育児期と

長期間にわたる禁煙継続のための支援を受けていないことも再喫煙の要因と考えられています。しかし、現在のところ再喫煙防止を目的とした長期に有効な禁煙継続のための支援方法は明らかになっていません。



産後の再喫煙防止を支援

そこで、われわれは現在、禁煙継続のため、地域で取り組む支援プログラムを開発しています。本プログラムは乳幼児の地域で実践可能な支援プログラムの開発・支援体制の構築を目指します。